



ヨシが生えている所には、生き物が多いって本当なの

ヨシの生えている所は、生き物のかくれ家

ヨシは、岸に近い浅い水底に生えています。水かさが増えたり減ったりするため、たおれないように、根は四方八方に地下けいをのばしています。ヨシよりもっと水際に、ガマやマコモなどがいっしょに生えていることが多く、これらの植物も、地下けいが四方に広がっています。びっしり生えたヨシのくきの間や、四方にはった地下けいのすき間は、カニや小魚などのかくれ家になり、鳥やネズミが巣作りをする場所にもなっています。

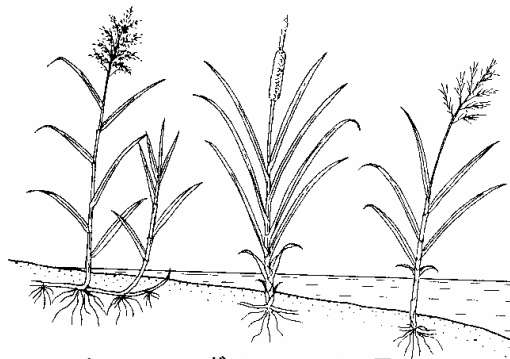
植物は、水のよごれを取り、酸素を出す

ヨシや、これらの植物の根が、水の中のよごれを栄養分として取りこむため、川の水がきれいになり、さまざまな生き物が、すみやすくなります。

植物は、葉やくきなどで、日光の力をかりて、水と空気中の二酸化炭素から、でんぷんなどの栄養分を作る光合成を行っています。このとき、酸素も作られ、水中や空気中に酸素を出しています。ほとんどの生き物には、酸素が必要です。水中で不足しやすい酸素を出してくれる、ヨシの生えた所は、生き物には、すみやすいといえます。

かれた植物の葉やくきなどは、水に落ちると、水中のバクテリアなどのはたらきで分解され、カニや貝などの小さな生き物のえさになります。

これらの理由で、ヨシがしげった所は、生き物が多いといえます。（監修・矢野 亮）



ヨシ ガマ マコモ

